言いよどみ語と留学生への日本語指導

梅林　博人

1．はじめに

日本語を母語とする者同士の日常の談話を観察してみると、そこには「アノ」「エート」などの言いよどみ語と呼ばれる語が存在する。ニュースやきわめて短い談話などでは別であるが[1]、日常の談話では存在することが自然である。

しかし、日本語教育との関連で、こうした言いよどみ語について触れられることは、あまり多くないようである。

そこで、ここでは、普段の留学生への日本語指導から受ける印象にもとづいて、言いよどみ語について記してみることにする。

2．言いよどみ語とは何か

まず、言いよどみ語とは何かを確認しておく。

言いよどみ語は、遊び言葉、間投声などとも呼ばれ、たとえば、次のように説明される。

> 言いよどみ語とは、その言葉の意味から言えば、話し手がためらい、そのために音の流れが停滞し、淀むことである。形の上では、文節末の母音を長く引いたり、また、「エー」「アー」「アノー」「ソノー」、さらに「そうですねー」「なんて言いますか」などの言葉をはさんだり、あるいは反復などの形をとって現れるのであるが、それが意味の切れ目、文の構造上の境界とは無関係に現れる所に、言いよどみ語の特徴がある。(小出(1983))

また、『音声学大辞典』(三修社)では、次のように定義されている。

> 言い淀み語
>
> 【定義】現代心理音声学において言い淀みとは、話し言葉の持続を中断する、統語論的ないし意味論的に無関係なあらゆる中断をさす。(p.46)

同辞典では、言いよどみ現象として、アー音・フムー音やその他の「埋草音」のほかに、笑い・泣き声・嘆息・あくび・無声の休止なども挙げている。

日本語の談話研究の場合では、通常、笑い・泣き声・嘆息・あくび・無声の

休止などは含めず、小出(1983)のように、いわば狭義的にとらえている。
したがって、ここでも、言いよどみ語を狭義的に考えておくことにする。

3．言いよどみ語の分類

談話に現れる言いよどみ語は、次のように分類できると考えられる。

（１）「アー、イー、ウー、エー、オー」の長母音。

①前の語の末尾母音の影響下にあり、それと同じ母音をのばす場合。

②前の語の末尾母音の影響下にないもの。文頭の「エー」など。

【例１】深田：エー、ちょっと顧みて、エー、みますとですね、エー、ふりかえってみますとオー、19(ｾﾝｷｭｳﾋｬｸ)ｳｰ、73年に、イー、学生デモが起こりました。この時は、タノム首相が腐敗をしているということで大きな騒ぎになったわけでありますが、この時は、アー、学生側の立場を取りまして、……(NHKﾃﾚﾋﾞ「視点・論点」'92.6.30,深田＝作家深田祐介)

（２）(1)以外のもの。具体的には、「コノ(ー)、ソノ(ー)、アノ(ー)、ウン、ウーン、エート、コオ(ー)、ハイ、マア」など。

【例２】加藤：…、日本にね、アノ、コオ、下し給ったね、漫画の、漫画の天女ですね、ウン、僕はそう思いますね。(NHKﾗｼﾞｵ「ＮＨＫジャーナル」'92.6.30,加藤＝漫画家加藤芳郎)

ただし、(2)については、例３の「ほんとうに」のように、言いよどみ語なのか、あるいは命題を構成する語なのか、はっきりしない場合がある。

【例３】リ：エート、今日は、エー、ね、まながつおを使いましたけれどもね、｛ア：ええ｝アノー、マア、お魚はこれ以外に、さばでもあじでも、ほんとうに、アノ、どんな魚でも使って｛ア：ええ｝いただけますし、……。(NHKﾃﾚﾋﾞ「きょうの料理」'92.6.30,ア＝ｱﾅｳﾝｻｰ、リ＝料理人。｛｝は相づち)

4．言いよどみ語の長所と短所

さて、それでは留学生の談話では、言いよどみ語の現れはどうであろうか。
中級程度の留学生の談話を観察してみると、そこにも言いよどみ語は見受けられる。長母音のほか、「コノ、ソノ、アノ」なども見受けられる。

もっとも、それらの言いよどみ語が、意識的に用いられているのか、あるいは、われわれ日本語を母語とする者と同じように、かなり無意識のうちに出ているのかは定かではない。先に引用した小出(1983)を参考にすれば、言いよどみ語は、「意味の切れ目、文の構造上の境界とは無関係に」用いることができる。したがって、留学生が、「言葉につまったときには、言いよどみ語を用いればよい」という知識から、意識的に言いよどみ語を用いるということは、かなり考えられることである。

いずれにせよ、留学生も、言いよどみ語を用いている。そして、日本語を母語とする者が自然な談話で用いている以上、留学生がそれを用いることは、当然悪いことだとは考えられない。

確かに、言いよどみ語が入ると、文の冗長度が増し、不整表現となるかもしれないが、一方で、相応のメリットも考えられるわけである。

したがって、要は、言いよどみ語を用いることによって、どういう効果があるのかを留学生に述べておくことが必要であろう。特に、留学生が、言いよどみ語を意識的に用いているのだとしたら、これは、なおさら必要なことと考えられる。

そこで、いま、樺島(1964)、小出(1983)、畠(1985)などにもとづいて、言いよどみ語の長所、短所をまとめてみると、次のようなことが挙げられる。

長所

○「聞き手の緊張感をやわらげ(樺島)」ることができる。

○「談話の流れの中で、自分が話すべき順番にあると認識していること、そして話を続ける意志があること、この二つの表示になっている(小出)」。

短所

○意味の切れ目、文の構造上の境界とは無関係に現れ、しかも意味的に重要でない言葉なので、「文理解の障害になったりもする(小出)」。

○畠氏によると、談話の種類によって現れる言いよどみ語は決まっているということである。たとえば、「エー」が現れるのは「講演、講義、国会の答弁など、かなりの聴衆を前にして発話された」場合であり、「アノ」は「座談会、ちょっとした用談、伝達など少人数で、ある程度決められた話題について、多少とも複雑な情報を交換する」場合に現れるという。とすると、こうした傾向に著しく反して言いよどみ語を用いると、その場に不適切な話し方をしているということで、聞き手に違和感や不快感を与える可能性がある。

たとえば、少人数の談話で「エー」を連発すれば、妙に堅苦しい印象を与えるおそれがあるといったことなどが考えられる。

こうしたことのうち、特に短所については、留学生によくよく述べておく必要があると思われる。

5．不整表現について述べておくことの必要性

初級の留学生が、「私は、日本人の談話がうまく聞き取れない。」だから、「テキストの勉強が足りないと思う」とか「もっとテキストをしっかりやろうと思う」といった内容のことを言うことがある。

このとき、留学生に対して示唆しておく必要のあることは、実際の談話は、テキストほど整合的ではないということである。現実の談話では、繰り返し、倒置、省略、そして、ここで取り上げている言いよどみ語などが混在していて、かなり不整合な表現となっている。

したがって、テキストの整った談話文を読んだテープを聞き取る能力があったとしても、日本人の談話を十分に不自由なく聞き取ることが、常にできるとは限らないわけである。

話し言葉は、文字化された言葉とは必ずしも同じではないということは、一見分かっているように思われることであるが、ややもすると忘れがちである。そのため、「テキストは分かるのに……」といった苛立ちを覚えたり、場合によっては「テキストが悪い」といった不満をいだくことになったりもする。

言いよどみ語についての知識は、現実の不整合である談話の姿を了解させる意味においても、述べておくことが必要と思われる。

6．おわりに

本稿は、普段の留学生指導からの印象にもとづいて記したものである。したがって、言いよどみ語の日本語教育への応用の可能性などについては、今後検討をしてみたいと考えるところである。

注

＜1＞ニュース、声明の発表、大会宣言などでは、言いよどみ語がきわめて少

ない。この点を含めて、談話の類型と言いよどみ語の関係については、畠(1985)で述べられている。

参考文献

伊佐早敦子(1955.3)「はなしことば序－不整表現を中心として－」『国語国文』22-3京都大学国語国文学会

稲垣吉彦(1977)「まだるこしさの周辺」『日本語講座第五巻 話しことば書きことば』大修館書店

樺島忠夫(1964)『表現論』綜芸舎P.83

金田一春彦(1962)『日本文学新書 日本語の生理と心理』至文堂p.146、p.279

小出慶一(1983)「言いよどみ」『講座 日本語の表現３』筑摩書房

中川善之助(1952.7)「エーの社会学」『言語生活』10号

畠弘巳(1985)「言いよどみ語アノーとエーによる談話の類型化」『国語学』141号

水谷　修(1989)「異文化のコミニュケーション」『「ことば」シリーズ30 言葉の伝達』文化庁

『音声学大辞典』(1976)三修社 P.46

『国語学辞典』(1955)国語学会 P.218「間投声」の項

（うめばやし　ひろひと）